



洋書輸入協会会報

Vol. 29 No. 3 (通巻334号) 1995年3月

理事会報告

2月27日(月)

(一) 1月分収支報告

2月23日(木)開催の総務委員会で審議の1月分収支について事務局長の報告を承認した。

(二) 総務委員会報告

今年度の定時総会開催を5月26日(金)に決定した。

(三) 事業委員会報告

東京国際ブックフェア'95は無事終了、昨年を超える入場者数があり、同時開催の洋書バーゲンセールは予想以上の好成績であった。

3月16日(木)

(一) 2月分収支報告

3月7日(火)開催の総務委員会審議の2月分収支について総務委員長報告を承認した。

(二) 1995年度予算案審議

同日総務委員会で協議し作成した予算案をもとに審議、一部訂正のうえ承認した。

(三) 公正取引委員会の立ち入り検査

3月9日(木)協会事務局に公取の立ち入り検査がおこなわれ34点の書類が押収された。協会事務局の他丸善、紀伊国屋書店等会員14社が同様の検査を受け、それぞれ書類が押収されたとの報告があった。

海外ニュース

英国でNBA支持側が勝訴

英国の書籍業界は、書籍正価本協定 (Net Book Agreement NBA) を維持するための9年間に及んだ争いの後、遂に勝利を得た。欧州司法裁判所の判決によると、EU内各国間の商取引におけるNBAの適用を非合法化するEU委員会による前回の判決は誤りである、とされた。

この判決は、欧州各国間での商取引においてNBAが正規に承認されなくてはならないという事は意味しない。しかし、EU委員会はドイツとオーストリアの間に現在ある出版物再販制に似た制度の承認を検討中であり、事態は英国出版協会(PA)にとって希望のもてる方向に進展している。

裁判所の判決内容は以下のとおり

- ・委員会による再販制承認の拒否を無効とする
- ・PAの主張を斥けた第一審の判決を無効とする
- ・委員会に対して、委員会側の費用とPAおよびPA支持の訴訟参加人(英国書店協会=BAとアイルランドのCIE)の費用の支払いを命ずる。
- ・PAに対立する訴訟参加人であるベントスに対して、費用の支払いを命ずる。

理事会報告	1	通関統計(前編).....	3	お知らせ	7
海外ニュース	1	総代理店ご案内	5	広告	8
うちの会社	2	東京の坂と橋と文明開化50	6		

PAの代表者の一人C. Bradley氏は今回の判決で英国の書籍業界は「大勝利」を得たと述べている。もし今回の判決が逆のものになっていたら、NBAはまた一つ大打撃を受けたことだろう。

今回の判決は、NBAの制度が果たして良いものなのかどうかという点も含めて、これまで問題視されてきた。論議のすべてを逆転させたとも言える。また、この判決を考慮すれば、NBAをEU各国間の取引だけに限定して、英国内の書籍の販売に関しては認めないということはほとんど考えられないため、公正取引委員会(OFT)に対してもPA側は有利となった。

BAも欧州司法裁判所の判決を非常に評価し、これがEU内の複数国での正価本の販売が可能となる新たな制度へ向けて扉を開くことになると期待している。また、BAの代表B. Taylor氏は、これまでNBAはまるで英国特有の風変わりな制度であるかのように扱われていたが、実際にはヨーロッパ各国にも何らかの形の再販制があり、今回EU内での最高司法機関がNBAに有利な判決を下したことはNBAの存続の希望と威信を高めることになった、と述べている。

—Bookseller '95.1.20号より抜粋—

うちの会社

海外出版貿易株式会社

当社は戦前、ヨーロッパより精密機械器具の輸入貿易業を営んでおりましたが、戦後は世界各国より外国書籍及び雑誌の直輸入貿易を開始しました。

昭和24年3月、発展的に株式会社組織とし、一般洋書はもとより技術・基礎工学文献関係、殊に情報・システム・材料・環境・機械並びに物理学・数学等の自然科学及び心理学・社会学関係書の取扱が増大し、現在、国内に於て各大学・官庁はじめ業界関係者の好評を得ております。特に当社は昭和33年に、我が国初の外国文献雑誌のAIR CARGO便方式を採用実施、現在、米国、英国及び独国より引き続き定期便にて入荷、多くの顧客にご利用をいただいております。

昭和34年にリプリント版(アジア版)の出版を開始、

心理学・数学等、現在10種以上を出版し、視聴覚用フィルム、スライドを各国より輸入、また、昭和52年より理工系及び社会科学系の専門書(欧文・邦文翻訳書)の出版開始、さらに、ご好評の世界標準色彩基準色票である米国マンセル式色票その他各種色票の日本代理店として関係顧客各位の信頼を頂戴しております。昭和46年より、各支社を販売会社として独立させ、海外グループの一員として、営業部門の強化とサービスの向上を目指すと同時に、業界の一員として業界全体の共存共栄と創業50周年真近の我が社の更なる発展を願うものであります。

総務部 筒井秀明

1994（平成6）年1～12月、洋書輸入通関統計とその分析（前編）

洋書輸入協会顧問 相 良 廣 明

大蔵省関税局から、1994（平成6）年1～12月の日本貿易統計が発表されたので、その中の洋書関係の数字をピックアップして表示すると共に、若干の分析を試みたい。

1. 1994年1～12月、書籍・雑誌の輸入通関統計表

（表1）書籍

（単位 百万円）

品 目	'93.1～12月 価	'94.1～12月 価	前年比	構成比
			%	%
単一シートのもの	114	132	116	0.6
辞典及び事典	547	392	72	1.6
その他のもの	23,448	23,400	100	97.8
計	24,109	23,924	99	100.0

（注1） 書籍とは、「印刷した書籍、小冊子、リーフレットその他これらに類する印刷物（単一シートのものであるかないかを問わない）」を対象とする。

（注2） 単一シートのは、折り畳んであるかないかを問わない。この分類は'88より新設のもの。

（注3） 辞典及び事典には、シリーズの形式で発行するものを含む。この分類は'88より新設のもの。

（注4） 「その他のもの」が、いわゆる一般の書籍である。

（表2）新聞・雑誌その他の定期刊行物

（単位 百万円）

品 目	'93.1～12月 価	'94.1～12月 価	前年比	構成比
			%	%
一週に4回以上 発行するもの	107	106	99	0.7
新聞	13	22	169	0.1
雑誌その他の定 期 刊 行 物	15,808	15,895	101	99.2
計	15,928	16,023	101	100.0

（注1） 新聞、雑誌その他の定期刊行物は、挿絵を有するか有しないか、または広告を含んでいるかないかを問わない。

（注2） 「一週に4回以上発行するもの」は、'88より新

設のもの。新聞ではない。

（表3）書籍・雑誌の合計額

（単位 百万円）

品 目	'93.1～12月 価	'94.1～12月 価	前年比	構成比
			%	%
書 籍	24,109	23,924	99	59.9
新聞・雑誌	15,928	16,023	101	40.1
計	40,037	39,947	100	100.0

（注1） 価格はCIF又はC&Fである。

（注2） 小額貨物の20万円以下は含まれていない。

（注3） 書籍は、現品入荷月の15日までに届出が行われるため、入荷より平均1ヵ月の遅れで計上されている。

（注4） 雑誌は、最終号が到着したと認められる時点において届出が行われるため、初号入荷時よりも約1年遅れで計上されている。

〔分析〕

(1) 400億円を割り込む

書籍、新聞・雑誌の輸入合計額は、前年比横這いの100%であるが、厳密に言うと0.2%の微減で、そのため400億円を割り込んでしまっている。1988（s63）年以来6年ぶりの300億円台への逆戻りである（表4参照）。

(2) 加重平均で6.6%の円高

1994年の主要6ヵ国為替相場の平均値前年比を、その国からの年間輸入額の構成比によって加重平均の上集計し、更にその他の国19ヵ国の為替相場の動向から主要6ヵ国以外の国全体を推計したものを加えた洋書業界の円高率は、6.6%であった（表7参照）。

6.6%円高でありながら輸入額（円価額）が横這いということは、出版社側のインボイス価格では6.6%のアップということになる。即ち円高で輸入額が6.6%ダウンしても仕方のないところを、昨年並みにとどめたのであるから、日本の洋書輸入業界はそれだけ健闘したといえて良いであろう。

(3) 1991年から連続4年の円高

1989年と'90年の2年続いた円安のあと、'91年から4年連続の円高で、各国の加重平均の円高率を集計すると、'90年比'94年は実に35.8%の円高になっている。4年間で3割6分の円高は大きい。これをUS\$ だけで見ると、1990年の年間平均が145円90銭、'94年が103円22銭であるから、4年間の単純比較では29.2%の円高、米国の加重平均合計では12.1%の円高となっている。今までは米ドルよりもその他の国の円高の方が、洋書全体に与える影響が大きかったことを認識しておくべきであろう。

なお、'95年3月8日には、東京で89円15銭の最高値を記録し、新聞にはドル危機を書き立てているから、今年も円高が続きそうである。

(4) 新聞・雑誌は、前年の17.7%ダウンを取り戻せず

新聞・雑誌は前年比101%であるが、これは円高分をカバーしただけで、'93年の前年比17.7%ダウンの分を取り戻していない(表4参照)。世間の価格破壊の風潮が輸入額にどう影響を及ぼしていくのか、注視したいところである。

2. 最近10年間の推移一覧

(表4) 1984～'94年、書籍、新聞・雑誌輸入通関統計推移表(指数は1980<昭和55>年を100としたもの)

(単位 百万円)

歴年	書籍			新聞・雑誌(注)			計		
	価額	前年比	指数	価額	前年比	指数	価額	前年比	指数
		%			%			%	
1984	20,874	104	91	11,006	99	98	31,880	102	93
'85	21,897	105	95	11,087	101	99	32,984	103	96
'86	18,174	83	79	9,837	89	88	28,011	85	82
'87	21,461	118	93	12,339	125	110	33,800	121	99
'88	23,143	108	101	13,591	110	121	36,734	109	107
'89	27,181	117	118	14,083	104	125	41,264	112	120
'90	33,274	122	145	16,966	120	151	50,240	122	147
'91	27,124	82	118	14,399	85	128	41,523	83	121
'92	26,597	98	116	19,360	134	172	45,957	111	134
'93	24,109	91	105	15,928	82	144	40,037	87	118
'94	23,924	99	104	16,023	101	145	39,947	100	117

(注) 1988(昭和63)年から、雑誌に新聞が含まれたため、'87年以前の数字は、すべて新聞含みの数字に訂正してある。

3. 主要6ヵ国の1994年1～12月、書籍、新聞・雑誌の輸入通関統計表

(表5) 主要6ヵ国の品目別内訳

(単位 百万円)

国名	書籍				新聞・雑誌			
	単一シート	辞・事典	その他	計	週4回以上	新聞	雑誌・定刊	計
米	22	69	8,154	8,245	4	14	6,217	6,235
英	4	110	5,747	5,861	2		3,325	3,327
独	7	14	2,829	2,850		1	1,297	1,298
仏	3	5	944	952			564	564
オランダ	4	0	804	808	1		1,901	1,902
スイス	6	4	414	424			547	547
小計	46	202	18,892	19,140	7	15	13,851	13,873
その他の国	86	190	4,508	4,784	99	7	2,044	2,150
計	132	392	23,400	23,924	106	22	15,895	16,023

[分析] 国別に見てみると、昨年実績と各国ともほとんど変りがない。強いていえば、辞書・事典で米国が英国に首位の座を譲ったことと、米国からの新聞が前年比で70%近く増加したことである。

(表6) 主要6ヵ国の集計

(単位 百万円)

国名	書籍			新聞・雑誌(注)			計		
	価額	前年比	構成比	価額	前年比	構成比	価額	前年比	構成比
		%	%		%	%		%	%
米	8,245	89	34	6,235	102	39	14,480	94	36
英	5,861	106	25	3,327	100	21	9,188	104	23
独	2,850	91	12	1,298	86	8	4,148	90	10
仏	952	117	4	564	82	4	1,516	101	4
オランダ	808	91	3	1,902	89	12	2,710	90	7
スイス	424	114	2	547	128	3	971	121	3
小計	19,140	96	80	13,873	98	87	33,013	97	83
その他の国	4,784	116	20	2,150	125	13	6,934	118	17
計	23,924	99	100	16,023	101	100	39,947	100	100

(注1) 書籍は単一シート、辞・事典、その他を含む。
新聞・雑誌は、週4回以上発行するものを含む。
(注2) ドイツは1991年より東西ドイツ合併の数字を用いている。

4. 主要6ヵ国の為替相場の動向

(表7) 1994年1～12月、主要6ヵ国の年間平均為替相場の前年比とその他の国の前年比の推定、及び年

通貨	'93. 年間平均為替相場	'94. 年間平均為替相場	前年比	'94. 年間洋書輸入額構成比	'94. 年間円高、円安の加重平均
	円	円			
U.S \$	112.09	103.22	7.9%の円高	36%	2.8%の円高
Stg. £	170.78	160.48	6.0%の "	23	1.4%の "
D.M.	67.95	63.79	6.1%の "	10	0.6%の "
F.FR.	20.05	18.85	6.0%の "	4	0.2%の "
D.GL.	60.47	56.86	6.0%の "	7	0.4%の "
S.FR.	76.06	75.78	0.3%の "	3	0.0%の "
小計				83	5.4%の "
その他の国			推定 7.1%の "	17	1.2%の "
総 計				100	6.6%の円高

間洋書輸入額構成比に応ずる各国相場前年比の加重平均

(注1) 円高、円安率の計算は次の式によった。

$$\frac{\text{前年同期} - \text{当年}}{\text{前年同期}} \times 100$$

(注2) その他の国で調査した19カ国のうち、円安はフィンランドとニュージーランドの2カ国だけで、他は全部円高であった。(後編へ続く)

総代理店ご案内

ユニテッド・パブリッシャーズ・サービス社

Tel. (03) 3291-4541

Fax. (03) 3293-3484

ハロッド図書館用語辞典 改訂8版

Harrod's Librarians' Glossary, 8th ed. Compiled Ray Prytherch. 721pp.

1995年4月刊行予定 ISBN 0-566-07533-4

(Gower Publishing)

予価¥18,200(税別)

経済学人名辞典 改訂3版

Who's Who in Economics, 3rd ed. A Biographical Dictionary of Major Economists. Edited by Simon James and Mark Blaug. 960pp.

1995年5月刊行予定 ISBN 0-13-434317-4

(Prentice-Hall Harvester Wheatsheaf)

予価¥35,000(税別)

ストッキスト業務開始のお知らせ

- University of Arkansas Press
- University of British Columbia Press
- Catholic University of America, Press
- University Presses of Colorado
- Fordham University Press
- University of Hawaii Press
- Hoover Institution Press
- Kent State University Press
- University Press of Mississippi

- Northeastern University Press
- University of Oklahoma Press
- Purdue University Press
- The Shoestring Press
- Temple University Press
- Texas A&M University Press
- University of Utah Press
- Vanderbilt University Press

小社はこのたび EWEB(East-West Export Books) グループの上記17社のストッキスト業務を開始いたしましたのでお知らせいたします。

港区の坂と文明開化〔7〕 公使館めぐり

丸善・本の図書館 鈴木 陽 二

◆アストンと日本研究

1991年にケンブリッジ大学東洋研究学部編纂によって、同大学所蔵の日本の古版本コレクションの目録が刊行された。“Early Japanese Books in Cambridge University Library: a Catalogue of the Aston, Satow and von Siebold Collections. By Nozomu Hayashi and Peter Kornicki” というもので、このタイトルで理解できるようにこれらの古版本はアストン、サトウ、シーボルト（フランツ・フォン・シーボルトの次男）の蒐集にもとづくコレクションである。本目録収録のタイトル数は2,569点であるが、新村出博士の「アストン等の旧蔵日本書のことなど」（『新村出全集』第9巻）には、1920年の調査でアストン旧蔵本が9,427冊、サトウのが433冊、シーボルトは940冊であった、と記しているが、おそらく冊数で数えればそうなるのであろう。しかし、ここでコレクションの分析を始めたら、それだけで今月分が終わってしまうので割愛するが、ただアストン本の数が飛び抜けて多いのは、必ずしも彼の蒐集によるものではないようで、研究のためにサトウが貸与した本がそのままアストンの旧蔵書としてケンブリッジ大学に収蔵されたためということである。今月は、このアストン・コレクションに帰結した彼の日本研究の歴史を、著作の解説を中心にたどってみることにしたい。

アストン (William George Aston) は1841年にアイルランドのロンドンデリー近郊で生まれ、1846（元治元）年に弱冠24歳でイギリス公使館の日本語通訳生として来日した。そして、兵庫領事、朝鮮総領事、東京駐在イギリス公使館書記官を歴任して、1889年25年に及ぶ異国での生活に終止符を打って帰国した。その間、約2年ほどの朝鮮時代を除いたすべての期間を日本で過ごしたのであるが、いわゆる「パークス・スクール」（公使パークスが指導した日本研究グループ）の優等生であった彼は、豊かな日本語の知識を背景にした数々の優れた日本研究を世に送り出している。『日本文学大辞典』（新潮社）には17点の著作や論文が上げられているが、これだけではなく、とくに『日本アジア協会紀要』には死の直前の1911年までおびただしい数の論文を発表したとい

うことで、その精力的な研究の様子が理解できる。

さて、彼の最初の研究は日本語に関するもので、1869年にベルファーストで“A Short Grammar of the Japanese Spoken Language”を刊行し、3年後の1872年には横浜で“Grammar of the Japanese Written Language”を上梓した。彼の日本語に関する大きな研究成果は日韓言語同系論を初めて唱えたことであり、1879年には王立アジア協会誌に“A Comparative Study of the Japanese and Korean Language”を発表している。

日本語の高度にわたる専門的研究は、アーリア語との関係やアイヌ語の研究にまで及び、彼の研究意欲はそれに止まらず、日本人の祖先崇拜、日本神話、法律制度、日本文学、また日本の古典の翻訳などと、広い分野にわたり、その中には『日本書紀』の訳業、大作『日本文学史』や晩年の傑作『神道』など、後世に残る成果が彼の日本学者としての地位を不動のものとした。

『日本書紀』は1896年に“Nihongi. Chronicles of Japan from the Earliest Times to A.D. 697”というタイトルでロンドンの Kegan Paul から公刊した。この訳はチェンバレンの『英訳古事記』やサトウの『祝詞』などと並んで日本古典の未曾有の訳業といわれ、大きな業績に上げられている。続く“A History of Japanese Literature”は1898年にロンドンの Heinemann 社から刊行された。本格的な日本文学史がなかったこの時代、高い評価をもって歓迎された著作であった。また、晩年の労作“Shinto: The Way of the Gods”はロンドンの Longman, Green 社による1905年の出版であった。この著作は日本における宗教的な問題ばかりではなく、言語・文学・思想・信仰・風俗・習慣を広くとらえ、また世界的な視野で科学的に比較検討した日本民族・民俗論ともいえるべきものであった。

結核に罹病したひ弱な体質の生涯であったが、日本への知識と好意にあふれた外交官としての彼の活動と日本研究の成果は、英国の対日外交の指針策定にしばしば影響をあたえ、こういう研究がもとなった英国人の日本理解が日英同盟を生んだ、と説いている学者もいる。

公正取引委員会の立入検査

3月9日(木)午前9時30分、協会事務局は公正取引委員会審査部の宮本審査官他1名の突然の来訪を受け、約7時間にわたり事務局保有の全書類について立ち入り検査が行われた。

価格カルテルを結んだ疑いがあり独占禁止法3条の違反容疑とのことで提出命令により、会報101号以降全号、理事会記録、金銭出納帳等34点が押収された。

なお、協会事務局の他会員の事務所も各々4名～30名規模の審査官の立ち入り検査がありそれぞれ書類が押収されたとの報告があった。

立ち入り検査を受けた会員は理事会社を中心に14社、丸善、紀伊国屋書店、医学書院、海外出版、北尾書籍貿易、国際書房、極東書店、緑書房、南江堂、ナウカ、日本出版貿易、ユサコ、洋販、雄松堂で、時間的には略一斉であった模様。

JBIA DIRECTORY 1995

— 4月中出来予定 —

(洋書輸入協会ダイレクトリー1995年版)

25.7×18.2cm 355頁 会員価格 2,500円(送料共)
 一般価格 4,500円(")
 海外価格 8,000円(航空便送料共)

洋書輸入協会会報・広告掲載料等のご案内

(1) 広告掲載料	A) 全 頁(表紙④)	(max. タテ20cm×15cm)	15,000円
	B) 2分の1頁(記事中)	(max. タテ10cm×15cm)	8,000円
	C) 3分の1頁(記事中)	(max. タテ7cm×15cm)	5,000円
	D) 4分の1頁(記事中)	(max. タテ5cm×15cm)	3,000円

(完全版下の原稿を送付のこと)

(2) 総代理店案内	1行(25字)あたり	300円
------------	------------	------

(3) その他の有料扱い	上記以外のもので、その内容が宣伝・広告の要素が強い記事については、寄稿者と相談のうえ有料扱いとすることがあります。料金はおおむね上記に準じます。	
--------------	--	--

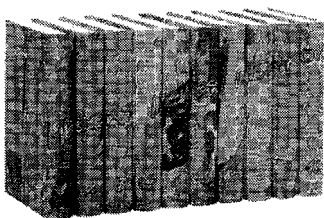
ご不明の点は事務局にお問合わせください。

ドゥーデン ドイツ語大辞典 全8巻 第2版

DUDEN
DAS GROSSE WÖRTERBUCH
DER DEUTSCHEN SPRACHE
IN ACHT BÄNDEN

2., völlig neu bearbeitete und erweiterte Auflage

約4000ページ 17.5×24.6cm 特価 各巻¥ 7,480
全巻¥59,840

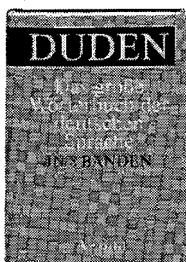


本辞典は、現代のあらゆる分野に関する言語を収録。標準語に加えて、方言、会話表現、階層、地域的な変化、さらにオーストリア、スイスにおけるドイツ語の語法、文法についても網羅している最新ドイツ語辞典です。

マイヤー・新百科事典 (全10巻)

MEYERS NEUES LEXIKON IN 10 BÄNDEN

上製(特製ジャカード織り)クロス装(刊行済) ISBN3-411-07501-5 ¥140,800
Standardaufgabe クロス装('94/9月刊) ISBN3-411-08901-6 ¥107,800



18.0×25.0cm 各巻528頁 見出し語約15万。

本事典は、政治・経済・歴史・地理から芸術・科学技術・スポーツまで広範な領域をカバー。コンパクトで場所をとらない10巻編成で情報を圧縮した高密度な内容。解説は簡潔・平明で図版も豊富。実用本位の最新ドイツ語百科事典。

Bibliographisches Institut/Mannheim

日本総代理店 日本出版貿易株式会社

〒101 東京都千代田区猿樂町1-2-1 TEL(03) 3292-3755 FAX(03) 3292-8766

1995年3月

通巻第334号

洋書輸入協会

編集者 神田 俊二

〒103 東京都中央区日本橋1-21-4 千代田会館5階20号室

☎(03) 3271-6901 FAX. (03) 3271-6920

印刷所—藤本綜合印刷株式会社